



あわいに込められた想い

「あわい」とは、人と人、物と物などの「あいだ」や境界を意味する大和言葉です。しかし、あわいは物理的な隙間ではなく、二つのものが交わる重なりや中間的な領域を指します。

「いなべ市梅林公園 あわい」は、そうしたものを改めて認識し、自分を取り巻くさまざまな関係性や自分自身と向き合える場所になっています。日々、忙しく過ごしている人が、ちょっと立ち止まれる。社会や環境の中の自分を振り返れる。そんなことができる仕掛けが、梅林公園 あわいの中にちりばめられています。



▲梅林公園の花梅

9月4日（金）、「いなべ市梅林公園 あわい」が開業しました。
この場所について、皆さんに紹介します。

あわいで見つかるいなべの魅力

いなべ市としての動き

いなべ市では、豊かな自然や人の営みといった地域資源を生かし、市内外の人になべの魅力をより深く感じてもらうまちづくりを進めてきました。一方で、市内を訪れた人がゆっくりと滞在し、いなべの魅力を一つの場所だけではなく、市内各地を巡りながら体験できる拠点が十分ではないという課題がありました。そこで、新たな拠点施設となる「いなべ市梅林公園 あわい」を整備し、この施設を入り口として市内各地を巡ってほしいと考えました。

市は、梅林公園を、観光客や宿泊者だけの場所ではなく、市内からも人が訪れる場所にしたいと思っています。市民の皆さんには、食事や買い物、体験などを通じて、日常的に公園を利用してほしいです。家族や友人と過ごし、地域活動や交流の場として親しまれ、市民の皆さんがいなべの魅力を改めて発見できる場所を目指しています。



いなべの梅を使った
梅シロップ作り体験



いなべの茶を使った
ほうじ茶作り体験

体験の一例

いなべらしい「ふるさと」へ



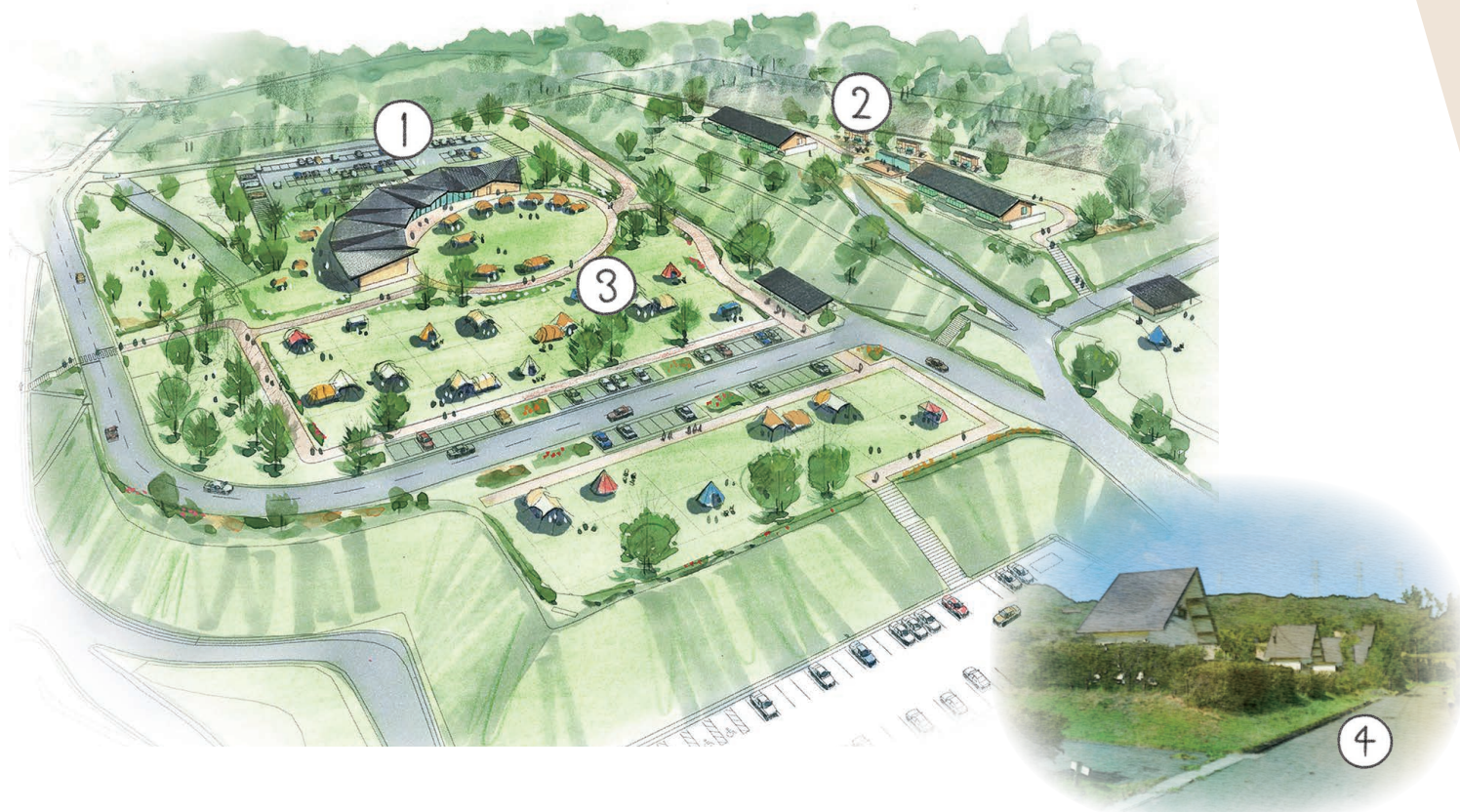
施設責任者
一橋 俊介
(一社) GCI

「いなべ市梅林公園 あわい」は、単なるキャンプ場ではなく、いなべらしい体験型コンテンツを楽しむことができます。お茶を入れたり、野草を探したりして、いなべの暮らしや里山の生活を体験し、五感で自然を感じてほしいです。忙しい日常から離れ、心地よい時間を体験してもらい、自然や里山での暮らしに魅力を感じてほしいと思います。また、拠点棟の前にある「ひろば」は、誰もが公園として使うことができます。市民の皆さんにも利用しやすい場所にしていきたいです。

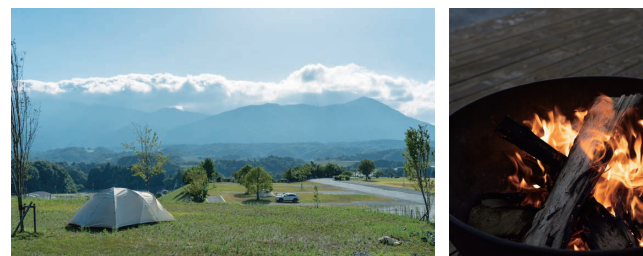
ここは地域の人々とともに作っている場所です。皆さんと対話を続け、施設を作る。それが、この場所の意義の一つであり、いい部分だと感じています。これからも、バランスを取りながら、地域の人たちとともに歩んでいきたいと思っています。

将来的には、梅林公園 あわいが訪れた人にとって、たまに帰りたくなる「ふるさと」になったらうれしいです。この施設を起爆剤にして、いなべの里山から地方創生に向けた第一歩を踏み出していきたいです。

「いなべ市梅林公園 あわい」施設紹介



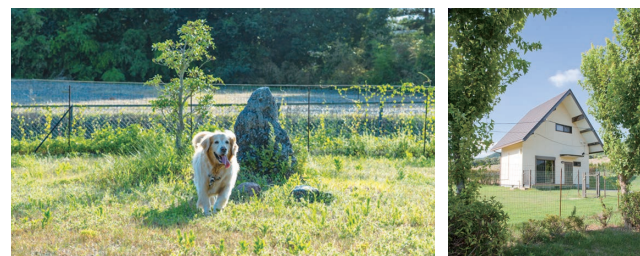
拠点棟「おもや」
レストラン「きせつ」やギャラリースペース「あわいの展示室」、ショップなど、さまざまな要素を兼ね備えています。前にある「ひろば」は公園として自由に利用できます。



キャンプサイト「のやど」
高台からの眺望を楽しめるキャンプサイトと、広々とした開放感を味わえるキャンプサイトの二つがあります。より身近に自然を感じられます。



宿泊棟「おやど」
里山の長屋をイメージした宿泊棟。リビングから鈴鹿山脈を一望でき、全室に半露天風呂を備えています。夜の静けさや鳥の声に包まれる、贅沢な時間を過ごせます。



アウトドアエリア「はなれ」
愛犬と一緒に楽しめるアウトドアエリアです。ドッグランを併設したキャビンとテントサイトがあり、愛犬とゆったりとした時間を過ごせます。

拠点棟「おもや」で感じるあわいといなべ

ギャラリー「あわいの展示室」



クリエイティブディレクター
松本 耕太さん
(株) 松風カンパニー



「いなべ市梅林公園 あわい」には、「あわいの展示室」というギャラリースペースがあります。

目の前にいるのは作家本人ではなく、誰かが作った作品。その作品を鑑賞するということが、一つのあわいだと考えています。自然物に対して、作品というのは人工物です。豊かな自然の中に、あえて人工物と対峙するための展示スペースを設けることで、自然とはまた違う世界や感覚、感性に触れることができます。それは、ある意味では自然と対峙することに近い体験なのかもしれません。

梅林公園 あわいには、展示室以外にもさまざまな機能があります。そういう意味では、ここは純粋なキャンプ場とも、ただの公園とも違います。一度来て、自分なりの過ごし方を見つけてほしいです。

選択肢の一つとして、「梅林公園 あわいに行こう」と選ばれる場所になればうれしいです。

鑑賞自体が一つのあわい



1. ギャラリー「あわいの展示室」のロゴ
2. あわいの展示室の様子。ここにさまざまなアート作品が飾られます

レストラン「きせつ」



レストラン「きせつ」
水野 里真さん
(株) 松風カンパニー

二十四節気に合わせて、いなべの旬を食べる。

レストラン「きせつ」はそんなコンセプトを持った場所です。食というキーワードを通じて、体験をしたり、いろんな人と関わったりしながら、いなべを知れる場所になればと思っています。

そのため、きせつではいなべ産の食材にこだわっています。同じ野菜でも、育てる時期や人によって、さまざまな違いが表れるので、その違いも含めて、いなべを感じてほしいです。また、レストランの利用ももちろんですが、せっかくなら自然の中でシートを広げて食べてもらいたいのので、食事はお弁当をベースにしています。

市内に住んでいても、梅林公園を訪れる機会はそう多くないと思います。ここに来たくなるよう、いろいろな仕掛けをしますので、ぜひ気軽に遊びに来てください。

食を通じていなべを知る



1. レストラン「きせつ」のロゴ。季節によって色が変わり、9月は秋の赤色
2. 店内の様子

地域との関わり

地域の協力があってこそ



緩く
関係が続ける。

県自治会長
伊藤 恒朗さん

施設を作る話を初めて聞いた時、「なぜ、こんなところに作るのか」と思いました。ここには、山はありますが、私たちが子どもの頃にあった里山とは違います。海も川もありません。だから、大丈夫だろうかと心配の気持ちでした。しかし、GCIの皆さんはこの地域について何度も話を聞きに来てくれます。私たちが当たり前だと思っていて、価値を感じる事が難しかった事柄を拾おうとしているのだと思いました。昔の暮らしや地域の文化を知る人から、知恵を聞きに来ている感じです。

私たちは、「梅林公園 あわい」と緩く付き合って、地域のものを少し使ってもらっています。大切なのは、無理をしないこと。私たちは、思いついたことを提案することくらいしかできません。それでも、梅林公園あわいが成功するように、今後もアイデアを出し合える関係が続けばいいと思っています。



梅林
公園を全国へ。

梅林公園管理者
清水 雄二
(一社) GCI

梅林公園の管理者として、梅林公園の整備を担っています。水やりや草刈りに加え、梅の木の手入れも行っています。また、GCI職員の中には、植物の育て方や手入れの仕方を知らない人もいますので、そういう人からの相談に乗ったり、アドバイスをしたりすることもあります。

今年の梅まつりでは、約8万人の人に来てもらいました。今後、花梅を増やし、道と駐車場の整備を進めていけば、来園者は10万人を超えるでしょう。全国で一番の梅林公園にすることができます。しかし、梅まつり以外の時期では、梅林公園を訪れる人はそう多くはありません。「梅林公園 あわい」によって、普段から人が来てもらえるとうれしいです。特に、体験は市内の人にも需要があると思います。

梅林公園と梅林公園 あわい。お互いに、お互いで人を呼び込める関係になればうれしいです。

プレオープンの様子



8月に行われたプレオープンには、市内外から多くの人々が訪れました。

ショップでは、商品を手にとり、いなべ市や周辺の市町で作られた品物に目を輝かせている人の姿が見えました。また、レストラン「きせつ」では、料理を味わいながら、店員に作り方を聞く様子もあり、訪れた人々は梅林公園 あわいでの交流を楽しんでいました。



訪れた人々の声

- ・景色が素晴らしく、思わず写真を撮りたくなった。
- ・見事な建物。とてもきれい。
- ・ぜひ泊まってみたい。
- ・春や秋には、また景色が変わると思う。1年を通して楽しめる場所になっている。



ショップで感じるいなべ

拠点棟「おもや」の一角にあるショップ。いなべを感じることができる、地域素材を生かしたオリジナル商品が並んでいます。



1. 梅林公園の梅を使った梅漬け
2. 地元農家の商品
3. 梅林公園の梅を使った酒
4. いなべ市の特産品である茶

問い合わせ先

- いなべ市梅林公園 あわい
- 住所：藤原町 851 番地
- 営業時間：10：00 ～ 18：00
- 指定管理者：（一社）グリーンクリエイティブいなべ
- 電話番号：37-7161
- 定休日：不定休（メンテナンス休業あり）



▲公式サイト



▲Instagram